# 岐阜県スキー連盟　18－19　アルペン部組織図

| アルペン部 | |
|---|---|
| 部　長 | 水田　奈央生 |
| 副部長 | 木戸脇　千景 |

| 契約コーチ |
|---|
| 下畑　由衛 |
| 井上　春樹 |
| 佐藤　絵里 |

| 競技運営委員会 | |
|---|---|
| 委員長 | 宮腰　一臣 |
| 副委員長 | 石塚　士朗 |
| 副委員長 | 松井　良一 |

| 委員 | |
|---|---|
| 中体連委員長 | 木戸脇千景 |
| 高体連委員長 | 高橋佑介 |
| 公認大会等開催地代表 | モンデウススキー場 |
| 公認大会等開催地代表 | ほおのき平スキー場 |
| 公認大会等開催地代表 | ダイナランドスキー場 |
| 公認大会等開催地代表 | 県民体育大会開催地 |
| セクレタリー | 北村晃代 |
| セクレタリー | 大森景子 |

| | |
|---|---|
| SAJ計算委員 | 岩塚藤嗣 |
| 〃 | 宇都宮優 |
| 〃 | 田尻久徳 |
| 〃 | 谷口宗徳 |
| 〃 | 島野順平 |
| 〃 | 平田令吾 |
| 〃 | 谷村宗洋 |

| | |
|---|---|
| SAJ-TD | 大場順二 |
| 〃 | 垣下大吾 |
| 〃 | 下畑由衛 |
| 〃 | 水田奈央生 |
| 〃 | 高橋佑介 |
| 〃 | 平田令吾 |

| | |
|---|---|
| SAJセッター：A | 大場順二 |
| 〃 | 垣下大吾 |
| 〃 | 水田奈央生 |
| 〃 | 高橋佑介 |
| 〃 | 櫻田一平 |
| 〃 | 大倉友香 |
| 〃 | 平田令吾 |
| 〃 | 森本優希 |
| 〃 | 長瀬大護 |
| SAJセッター：B | 大森良仁 |
| 〃 | 大沼忠之 |
| 〃 | 谷村宗洋 |
| 〃 | 佐藤三代 |
| 〃 | 手塚正太 |
| 〃 | 松井宏樹 |
| 〃 | 岡田竜熙 |

| 強化委員会 | |
|---|---|
| 委員長 | 櫻田　一平 |
| 副委員長 | 下畑　由衛 |
| 競技スポーツ課連携 | 大倉　友香 |

| ユース強化 | |
|---|---|
| ヘッドコーチ | 下畑由衛 |
| テクニカルコーチ | 井上春樹 |
| フィジカルコーチ | 佐藤絵里 |
| コーチ（兼エントリー担当） | 上町智 |
| コーチ(地元トレーニング) | 森本優希 |
| コーチ(地元トレーニング) | 松井宏樹 |
| | |

| 高校生強化 | |
|---|---|
| ヘッドコーチ | 櫻田一平 |
| コーチ | 森本優希 |
| コーチ | 平田令吾 |
| コーチ | 高校スキー部顧問 |

| 社会人強化 | |
|---|---|
| ヘッドコーチ | 高橋佑介 |
| コーチ | 井上春樹 |
| コーチ | 平田令吾 |

※ヘッドコーチ

1　担当部署の強化目標、強化方針の策定
2　事業計画の作成
3　予算案の作成
4　事業推進に関わる関係機関との調整
5　決算報告準備（事務局との連携）

| 育成委員会 | |
|---|---|
| 委員長 | 高橋　佑介 |
| 副委員長 | 大倉　友香 |
| 副委員長 | 竹内　学 |

| ユース育成 | |
|---|---|
| ヘッドコーチ | 大倉友香 |
| フィジカル指導 | 佐藤　絵里 |
| コーチ | 長瀬大護 |
| コーチ | 谷村宗洋 |
| コーチ | 佐藤三代 |
| コーチ | 大森良仁 |
| コーチ | 岡田竜熙 |
| コーチ | 橋詰佳奈 |
| コーチ | 橋脇彩 |
| コーチ(強化委員会と兼務) | 平田令吾 |
| コーチ(強化委員会と兼務) | 森本優希 |
| コーチ(強化委員会と兼務) | 松井宏樹 |
| | |

| | |
|---|---|
| **地域スポ少連携** | **竹内　学** |

# 岐阜県スキー連盟　18－19　新体制における業務関係図

| アルペン部 | |
|---|---|
| 部　長 | 水田　奈央生 |
| 副部長 | 木戸脇　千景 |

| 契約コーチ |
|---|
| 下畑　由衛 |
| 井上　春樹 |
| 佐藤　絵里 |

・SAGアルペン部全般に関すること。
・（公財）全日本スキー連盟との連絡、調整に関すること。
・アルペン部3委員会を統括し、事業を円滑に展開すること。
・SAG常任理事会、理事会への提案に関すること。

| 競技運営委員会 | |
|---|---|
| 委員長 | 宮腰　一臣 |
| 副委員長 | 石塚　史朗 |
| 副委員長 | 松井　良一 |

・国体予選の日程、会場調整を、強化委員会と連携して行うこと。
・県内公認大会の組織編成、依頼を開催地と連携し行うこと。
・旗門員、セクレタリー等専門的役員の育成に関すること。

管轄する予算　国体予選費（連盟）

**具体的課題**

| | |
|---|---|
| 8）専門性の高い競技役員（旗門員、セクレタリー、TD、セッター)の育成を図る。また、国体予選、公認レースにおいては、安定した競技運営を行うため、スキークラブ等への役員依頼を体系化する。 | ①ブロック事業（セッター・旗門員等検定会）への参加促進。 |
| | ②セクレタリー業務のマニュアル作成。人材確保、育成。 |
| | ③公認旗門審判員資格取得者への優遇制度構築。 |
| | ④県内クラブへの役員動員依頼（関係構築） |
| 11）国体予選会会場において、ローテーション化が可能かどうかを検討する。予選開催が可能か、予選の最優先目的をどこに置くか等を検討し、決定する。また、要項も修正を行う。 | ①国体予選開催可能スキー場との調整 |
| | ②ブロック持ち回りか？休日開催か、平日開催か？ |
| | **③要項の修正（ドロー方法、ポイント等）** |

| 強化委員会 | |
|---|---|
| 委員長 | 櫻田　一平 |
| 副委員長 | 下畑　由衛 |
| 競技スポーツ課連携 | 大倉友香・櫻田一平 |

・強化指定選手の選考に関すること。
・強化事業の計画、運営に関すること。
・競技運営委員会と連携し、国体予選要項を作成すること。
・県内公認大会のスケジュール調整。
・大会のエントリー業務

管轄する予算　国体強化対策事業　未来の清流アスリート育成事業　連盟強化費

**具体的課題**

| | |
|---|---|
| 1）強化指定選手については、各世代の目標を明確に設定したうえで、強化方針、強化の方法を決定すること。 | ①人、物、予算の把握 |
| | ②目標、強化方針、具体的対策の検討 |
| | ③中学生強化指定選手制度の抜本的見直し |
| 2）選手強化においては、保護者の負担軽減を図り、中学校、高校でスキーを続けやすくするため、地元練習をベースに計画する。「地元の環境を最大限活かし、子供の力を最大限伸ばす」ことができるようコーチは練習方法、育成方法について学び続けること。 | ①地元スキー場（ほおのき、ﾓﾝﾃﾞｳｽ）での活動を基本とした事業計画を立案する。（予算確保、スキー場との調整） |
| | ②お金をかけなくても、強くなれる環境、優秀な指導者、マネージャーの育成。プロコーチシステムの確立。 |
| 7）正しい情報発信のため、保護者も参加できる事業を展開する。 | ①練習会や研修事業に保護者にも参加してもらえる内容を盛り込む。 |
| | ②スポーツ少年団を通じた正しい情報の発信方法の検討 |
| 11）国体予選会会場において、ローテーション化が可能かどうかを検討する。予選開催が可能か、予選の最優先目的をどこに置くか等を検討し、決定する。 | ①国体予選開催可能スキー場との調整 |
| | ②ブロック持ち回りか？休日開催か、平日開催か？ |
| 6）高等学校でスキーを続ける選手を増やすため、高校生の活動方法について検討を重ねる。（強化）、（高体連） | ①練習の拠点を地元で計画する。 |
| | ②強化指定選手の選考、ランクを検討し、県外等への遠征が必要なレベルの選手には、補助を支給し保護者の負担を軽減する。 |
| | ③予算計画作成の見直し（引率コーチ基本１名、最大２名等） |

| 育成委員会 | |
|---|---|
| 委員長 | 高橋　佑介 |
| 副委員長 | 大倉　友香 |
| 副委員長 | 竹内　学 |

・中学生の練習環境改善に関すること。
・地域スポーツ少年団との連携に関すること。
・県内指導者の育成に関すること。

管轄する予算　未来の清流アスリート育成事業

**具体的課題**

| | |
|---|---|
| 4）スポーツ少年団（小学生）の活動がさらに活発になる事業を促進し、選手層ピラミッドの下部を支える。 | ①スキー教室（案）でのスポ少の案内、宣伝を確実に行う。 |
| | ②スポ少指導者への研修事業の推進（指導者の資質向上） |
| | ③井上コーチの巡回指導事業の拡大 |
| 5）中学校において学区の枠を超えた練習環境、コミュニティの構築を促進し、選手層ピラミッド中間部を支える。 | ①中学生クラブの設立（詳細別紙） |
| | ②地域コーチ、保護者との信頼関係構築 |
| 7）正しい情報発信のため、保護者も参加できる事業を展開する。 | ①練習会や研修事業に保護者にも参加してもらえる内容を盛り込む。 |
| | ②スポーツ少年団を通じた正しい情報の発信方法の検討 |
| 2）全世代の選手が交流を図れる事業を展開する。 | ①全世代合同での練習会開催（陸トレ、雪上） |

| | |
|---|---|
| 1）我々指導者が、子供に対して将来の指導者、将来の競技役員を育てる意識をもって接する。 | ①ルールへの理解を深める雪上ＴＲ以外の指導場面の増。 |
| | ②「選手」、「競技役員」、「指導者」　育成すべき３本柱 |
| 1）普及・育成・強化それぞれの事業が単独に成果を発揮するだけでなく、３つの事業を１つのパッケージとしてバランス良く展開していくことで、スキー界全体の活性化を促す。 | ①連盟が有する資源（人、物、予算）を３事業にバランスよく投入する。（普及、育成、強化） |
| 2）選手、保護者、ＳＡＧ会員や学校、行政、地元企業等の関係機関、組織との強固な信頼関係を構築する。 | ②事業の目的、ターゲットを明確にし、入念な準備、宣伝を行ったうえで事業を展開する。 |
| 3）規約の見直しを図り、連盟内で統一した方針、ルールを共有する。 | ①委員個々の言動が特定の団体、特定の選手に偏らず常に全体への貢献を考える。 |
| 4）県、地域、学校、スキー場等への貢献があって初めて育成強化事業が成り立つことを忘れない。 | ②小委員会、委員会、部会では活発な意見交換を行う。ただし、組織決定後はその決定に従い行動、発言する。 |
| | ③予算執行及び外部関係機関への文書発送については、担当者が必ず委員長、部長、本部長の了承（決裁）を得ること。 |
| | ④予算の性質に応じた事業を計画、展開し、明朗な決算を行う。 |
| | ⑤公認大会及び県民体育大会、国体予選会の開催を通して、開催スキー場、開催市及び関係機関との信頼関係構築。 |
| 9）事業に携わる委員に対しての必要経費（旅費、謝金、食糧費）を、連盟規約に準じたなかで予算に組み込むこと。（部長、委員長） | ①会議の開催時期、日程の固定化、周知。 |
| 10）高等学校における冬季非常勤講師体制を継続させることができるよう関係機関への働きかけを重視する。（高体連） | ①県知事部局　競技スポーツ課、教育委員会との連携。 |
| | ②各校顧問が学校内での信用を確立すること。 |
| | ③非常勤講師（教員志望者の育成）の確保、情報共有 |